

JVC イラク医療支援活動についての報告書

特定非営利活動法人
日本国際ボランティアセンター（JVC）

はじめに

日本国際ボランティアセンター（JVC）は、イラク戦争前の 2002 年から、イラクの病院を対象に医薬品や医療機材などの支援を行ってきました。2004 年には、「日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）」を立ち上げ、以後は JIM-NET を通じてイラクの病院による小児がん医療を支援し、2009 年以降は JVC と JIM-NET の「共同事業」としてバスラ産科小児科病院への支援を続けてきました。JIM-NET は医師や大学関係者らの協力によりがんに関する高度な専門知識も提供できるようになり、また、2012 年には NPO 法人化して、単独での資金獲得もできるようになりました。

イラクの医療環境は依然厳しく今後も支援が必要な状況ですが、専門知識を要するがん医療については、今後は JIM-NET に任せて、共同事業という形は 2013 年度にて終了することにしました。今後は、JIM-NET が医師とのネットワークやその専門性を生かしながら支援を継続し、JVC は JIM-NET の会員団体として運営面などで側面的な支援を続けていきます。また JVC は、より経験や強みを生かせる分野で、今後もイラクの人々を支援していきます。

これまでご支援いただき、誠にありがとうございました。

活動について、以下のとおりご報告いたします。

支援実施期間 2002 年 9 月～2014 年 3 月
支援総額 計 118,469,051 円

年度／支援額 主なできごと	主な活動内容
2003 年度 14,619,337 円 3 月：イラク戦争開戦 4 月：フセイン政権崩壊 8 月：国連バグダッド事務所爆破事件、情勢悪化	4 月：バグダッド緊急人道支援、看護師派遣 4-12 月：ヨルダンにて在ヨルダン・イラク人妊産婦支援 8 月：医薬品の支援を開始。小児がん治療に必須の抗ガン剤や抗生剤などの医薬品（および医療機材）を、専門病棟を持つ拠点病院を対象に支援
2004 年度 16,641,000 円 1 月：自衛隊イラク派遣 4 月：日本人人質事件	6 月：JVC 事務所に「日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）」を立ち上げ、他の参加団体とともに、イラクの病院による小児がん医療を支援。主に医薬品の供給のほか、運営面などでも JIM-NET の活動を側面支援（以後 2013 年度まで継続）
2005 年度 9,208,714 円	・ JIM-NET を通じて小児がん医療にかかわる医薬品等の支援 ・ 4-12 月：ヨルダンにて在ヨルダン・イラク難民妊産婦支援

2006年度 6,000,000円 宗派抗争激化	・ JIM-NET を通じて小児がん医療にかかわる医薬品等の支援 ・ イラクでの医薬品供給状況に関する調査を実施、報告書を作成（和・英文）。それをもとに、日本政府に対しイラク支援の包括的な見直しを求める提言書を提出。
2007年度 6,000,000円	・ JIM-NET を通じて小児がん医療にかかわる医薬品等の支援 7-8月：ヨルダンにてイラク難民健康プログラム実施。
2008年度 6,000,000円	・ JIM-NET を通じて小児がん医療にかかわる医薬品等の支援 JIM-NET のチョコレート募金に協力（以後 2012 年度まで継続）。
2009年度 12,000,000円 （JIM-NET との共同事業）	長崎童話館様の指定寄付（年間 1200 万円）により、JIM-NET との共同事業として、バスラ産科小児科病院に対し小児がんや白血病の治療薬など医薬品および医療器材を支援（2013 年度まで継続）。
2010年度 12,000,000円 （同上）	
2011年度 12,000,000円 （同上） 米軍完全撤退	
2012年度 12,000,000円 （同上）	
2013年度 12,000,000円 （同上） イラク戦争から 10 年 再び情勢悪化	

<支援対象病院>

バスラ母子保健病院（バスラ、旧イヴン・ガスワン産婦人科病院）・バスラ産科小児科病院
 バスラ子ども病院（上記母子保健病院内にあった小児がん病棟が、2010年にアメリカ資本でできたバスラ子ども病院に移った）
 アル・サドル教育病院（バスラ、旧サダムフセイン教育病院）
 アル・サラーム総合病院（モスル）
 イブン・アル・アシル教育病院（モスル）
 バグダッド子ども福祉教育病院（バグダッド、旧マンスール小児教育病院）
 バグダッド中央小児教育病院（バグダッド、旧イスカン小児教育病院）

1. 活動の背景：

2002年、米英などによるイラク攻撃の可能性が高まる中、JVCは、バグダッドの病院を訪問、医薬品の支援を行ったり、現地の子どもたちと日本の子どもたちの絵画による交流を図ったりした。2003年3月のイラク戦争開戦から1か月後の4月、「フセイン政権崩壊」が伝えられて間もなく現地を再訪、緊急人道支援を実施した。当時イラクでは、白血病やがんの患者が増えており、1991年の湾岸戦争の際に使われた劣化ウラン弾が原因ではないかと言われていた。以後の経済制裁を通じて医療設備の老朽化と医薬品の不足が常態化しており、治るはずの子どもたちが命を落とす事態となっていた。

2. 活動の目的：

- 1) 白血病やがんの治療に取り組む病院への支援を通じて、イラクの子どもたちの命を救う
- 2) がんの原因と考えられている劣化ウラン弾の廃絶を訴える
- 3) 支援活動を通じて得た知見をもとに、日本政府などに対しアドボカシーを行う

3. 結果

- 1) 治安状況の悪化の中でも、安全な輸送手段、時期を選んで必要な医薬品の提供を続け、限られた範囲の中ではあるが、イラクの子どもたちの命を救うことができた。
- 2) JIM-NETを通して、他団体による医薬品支援を含め、支援の規模を拡大することができた。また、JIM-NETを通じて医師・看護師・検査技師などの研修を行うことによって、支援した医薬品がより効果的に使われるための環境を整えることができた。さらに、JIM-NETのネットワークを活用することにより、小児がん等に関する学術的・専門的なアドバイスを行うことができた。
- 3) 現地の医師や病院との間に信頼関係とネットワークを築くことができた。
- 4) イラクにおけるがんと劣化ウラン弾の因果関係は立証されていない。また、福島原発事故発生により2011年以降は劣化ウラン弾問題についての関心が相対的に低くなっている。
- 5) 2006年、イラクでの医薬品供給状況に関する調査を実施、報告書を作成（和・英文）。それをもとに、他団体と共に日本政府に対しイラク支援の包括的な見直しを求める提言書を提出した。その後の日本政府のイラクに対する人道支援額の増額は、この提言書のひとつの成果とも捉えることができる。

4. 詳細

2003年8月より、白血病医療支援として、イラク政府（保健省）の自助努力で供給できない医薬品を補完する支援を開始。小児がん治療に必須の抗がん剤や抗生剤などの薬品および機材を、がん専門病棟を持つ拠点病院を対象に支援した。

2004年4月以降JVCは、イラク国内の治安状況の悪化を受けて活動の拠点を隣国ヨルダンに移したが、バグダッド在住のイラク人の協力により支援活動を続け、緊急に必要とされる医薬品をバグダッドとモスルに届けることができた。医療機関の医師たちとも良好な関係を築いていた。この年6月に、イラクで医療支援を行っている他のNGOや、国内の医師たちと共に、支援の効率化、専門性強化、持続性をめざす「日本イラク医療支援ネットワーク（JIM-NET）」を立ち上げ、JVCが事務局をになった。JIM-NETが独自の事務所をもった2005年以後は、JIM-NETを通じてイラクの病院に

よる小児がん医療を支援。主に**医薬品の供給**のほか、運営面などでも JIM-NET の活動を側面支援した（以後 2013 年度まで継続）。

一方、2004 年 6 月末以降、イラク保健省が監督権限を強化、NGO から各医療機関への直接支援は原則禁止の措置を取ったため、例外措置として緊急支援目的に限り 1 品目 500 個以内という限定で医薬品支援の認可を得た。しかし、実際には小児がんの治療に必要な医薬品の不足が依然として続いていたため支援のニーズは強く、バスラの病院など、NGO の支援なくして治療が継続できないケースもあった。

2006 年 2 月、イラク国内で深まっていた諸勢力の対立が暴力へと発展、内戦寸前という状況となった。医療保健分野での支援ニーズは高まり、JVC も JIM-NET を通じての支援を継続した。またこの年は、イラクでの医薬品供給状況についての調査を実施、アドボカシー活動にも重点を置いた。

2007 から 2008 年度は、JVC 東京事務所にイラクの専任担当者が不在となったこともあって、医療支援活動のウェイトは多少小さくなり、JIM-NET の活動を側面支援するに留まったが、「中東パブリックフォーラム」を主催するなどのアドボカシー活動を行った。JIM-NET が 2008 年よりチョコレート募金を開始、JVC も販売に協力した（2012 年度まで継続）。

2009 年度から 2013 年度は、長崎童話館様からの指定寄付（年間 1200 万円）により JVC と JIM-NET の「共同事業」として医療支援（主にバスラの病院への医薬品および医療機材提供）を実施した。少しずつイラク政府による医薬品などの供給が軌道にのってきたこともあり、JIM-NET は、医薬品および機材の支援に加えて、院内学級運営や、患者に対する治療費の支援なども行った。JVC は、JIM-NET 事務局の運営や方針決定に関して必要に応じて助言したほか、JVC 代表理事（谷山博史）が理事として関わってきた。また、2012 年 2 月に JIM-NET が NPO 法人化した際には、JVC が手続き面で助言するなどの支援をした。

5. 活動を通じての学び・成果・課題

* 高度な専門的知識・経験を要する小児がんの医療支援において、医学的な専門性を持たない JVC にとっては難しい面もあったが、現地の人々の声に耳を傾け、日本の医師や専門家との協力関係を作ることにより効果的な支援を行うことができた。現地の医師・病院からの支援に対する評価は高い。

一方で、支援の成果を医学的に評価することの難しさにも直面した。医薬品支援の額や量は計ることができても、支援による「(治療などの) 成果」を計ることは難しい。しかし、JIM-NET の井下医師の努力により、5 年生存率などのデータをイラク人医師が正確に管理できるようになり、評価の指標をつくることができた。日本のように社会的な環境が整った状況と違い、イラクでは治安上の理由で病院に通うことが難しかったり、経済的な理由で治療を中断せざるを得なかったり、また、病気や治療に関する知識がないために治療を拒んだりする例があったりするのである。また、病院の施設や、感染症対策に関する病院スタッフの意識なども、日本における状況とは大きな違いがある。

JIM-NET は、医薬品や機材の支援に加えて、患者に対する治療費支援や病院スタッフの育成などにも取り組んでいるが、環境の改善にはまだ時間を要する。

JIM-NET との協力関係においては、ときに団体どうし意思疎通の難しさもあったが、互いに

協力して活動を続けてきた。

共同事業という形は 2013 年度末で終了したが、JVC は今後も JIM-NET の会員団体として連携・協力を続けていく。

これまでご支援いただいたことに、重ねてお礼を申し上げたい。

JIM-NET の活動のふりかえり

2004 年に発足以後、現地の病院に対して小児がん治療に必要な医薬品や機材の提供を続ける一方で、現地の医師たちを集めた会議を主催してきた。当初は医薬品支援の調整会議としてスタート、2014 年 2 月に 13 回目となる会議を開催した。2007 年頃から JIM-NET の井下医師ががんの患者数や生存率などのデータ収集を開始、会議内容が徐々に学術的・専門的な内容になってきた。現在、内容がさらに学術的・専門的になり、JIM-NET としてはその分野での支援は難しい面もあるので、今後は従来から協力関係にあるヨルダンの専門病院や日本国内の大学に学術的・専門的な支援を引き継いでいきたい。JIM-NET は、医薬品や機材の支援を継続し、患者のための滞在型ケアハウスの運営を支援していきたいと考えている。

約 10 年間の支援活動を通じて、現地医師たちとの間のネットワークと信頼関係を作ることができた。現地の担当医師たちにこの 10 年間で振り返ってもらったところ、医薬品の物理的な支援への謝意とともに、「JIM-NET から献身 (dedication, devotion) と人道、博愛 (humanity) を学んだ」「患者への考え方も変わった」などモラル的なサポートに対する謝意が多く挙がった。

患者の生存率は、支援開始後一時飛躍的に向上したが、近年は悪化している。シリア難民などを含めた人口増加、患者数の増加に対して医療関係のインフラ整備や人材の供給が追いついていないことなどが原因として考えられる。また、2013 年以降再び現地の治安が悪化しており、タイムリーな医薬品供給が難しい状況が続いている。

イラクのがん患者数は増えているにもかかわらず、イラク戦争後 10 年を経て国際社会や NGO からの支援は減っている（病院によっては JIM-NET が唯一）。特にバグダッドの病院は、老朽化も激しい。イラク保健省はかなり機能するようになってはきたが、医薬品の需要と供給を調整するシステムが整っていない。現地医師たちからも要望は上げているが、簡単には変わらないだろう。イラク政府の問題なので、政府レベルでの支援が必要と感じる。

また、イラクでは病院内での感染症対策が不十分なので、これまでもその必要性・重要性を訴えてきたが、普及はなかなか難しい。感染症対策を進めるにあたり、その知識を持った看護師の育成が必要だが、イラクでは看護師の地位が非常に低く（家政婦のような位置づけ）、戦争前は外国人労働者が担ってきた部分でもあり、人材育成が困難である。今後も継続しての取り組みが必要な領域である。

最後に、JVC の呼びかけで立ち上がったネットワークではあるが、がんなどの専門知識が必要で、なおかつ、国際協力や緊急人道支援では費用対効果が悪いこと、時に治療に年月を要することなどからも、見捨てられてきた領域である。10 年もの間、変わらぬ支援を続けてこられたのは、奇跡に近い。JVC を通じて JIM-NET の活動を支援して下さった皆様に、改めてお礼を述べたい。

(談 JIM-NET 事務局長・佐藤真紀氏)